

■ 目的 ■

東京農工大学は、政府が宣言した「2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロとする脱炭素社会の実現」に貢献するため、2022年に「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」へ参画しました。本学はこのビジョンを共有するとともに、今までの取り組みをさらに加速することで、研究・教育・キャンパス施設更新、地域・社会との連携を通じて、持続可能な未来の実現に向けた具体的な取り組みを進めます。

■ 活動内容 ■

✓ カーボンニュートラルに向けた重点施策

- ・ エネルギー効率の向上と設備の最適化
(LED照明や高効率空調への更新、地産地消型再エネ導入PJの活用)
- ・ 創エネの推進と再生可能エネルギー導入
(ソーラーシェアリング型再エネの研究・実装、太陽光発電設備の増強、オンサイトPPAの活用)
- ・ 脱炭素型研究開発の実証試験
(バイオ燃料や革新的な素材、森林整備によるカーボンオフセットなど、農工大発の環境技術を社会実装するための実証研究)

✓ 本学構成員への啓発と教育

- ・ 温室効果ガス対策委員会の開催と、各地区の夏期・冬期の節電指針の共有
- ・ グリーンキャンパス運動の推進と生活協同組合との連携による学生の脱炭素行動の促進
- ・ 環境・エネルギー分野に関する授業やアウトリーチ型教育プログラムの実施

✓ 学外との連携強化

- ・ 府中市・小金井市など自治体と連携したゼロカーボン施策を推進
- ・ エネルギー関連企業との協働によるPPA・ESCOなどの先進的な事業モデルの導入
- ・ 学際的連携を目的とした学際カーボンニュートラル研究アライアンスの構築
- ・ 脱炭素都市インフラ推進などのオープンプラットフォームにも参画

これらは、農学・工学の枠を超えた統合的アプローチとして、研究と実装とを同時並行で進めています。また、キャンパスマスタープランとの連動による設備・施設の段階的リニューアル、そして将来的には、ZEB対応建物の導入していきます。

■ 展望 ■

脱炭素社会の実現向け、教育・研究・社会貢献を柱に、2050年までのカーボンニュートラル達成します。今後も、学内外のステークホルダーとの連携をさらに強化し、脱炭素のフロントランナーとして持続可能な社会の構築に取り組みます。

東京農工大学ゼロカーボン化ロードマップ

2/2

東京農工大学ゼロカーボン化ロードマップ

